




電気自動車の活用

日産自動車(株)が全国の自治体を対象に「静粛性や給電機能を生かした各種作業車両としての活用」「災害時の蓄電池としての活用」「中山間地でのガソリンスタンド減少対策」など、より良いまちづくりのために電気自動車「e-NV200」の活用方法を提案した自治体に3年間無償で貸し付けを行ない、特長を活かした活用事例を積み上げ、全国に水平展開することにより電気自動車の更なる普及を目指すというもの。

竹田市では、この取組の趣旨に賛同し、一般公用車としての使用を基本に、災害時や各種イベント時の給電機能としての活用等、環境にやさしく低コストでの運行を目指し、地域に貢献した活用事例を発信していきます。

期 日	行 事 内 容	用 途	写 真
平成29年3月5日	第30回岡の里名水マラソン大会 爽やかな風吹く高原を走る！～	3月5日、「第30回岡の里名水マラソン大会」が竹田市運動公園スタート・フィニッシュで開催されました。全国から1,241人がフル、ハーフマラソン、10kmに参加。早春の青空のもと、湧水群の多い起伏に富んだロードコースを駆け抜けていました。 電気自動車は、スタッフの送迎や大会本部の放送器具等への給電へ活用されました。	
平成28年11月25日	竹田市公共施設等総合管理計画 現地調査	平成17年に1市3町が合併して竹田市が誕生してから10年が過ぎました。人口減少で過疎・高齢化が進み、保有する公共施設の人口一人当たりの延床面積は全国平均の3倍となっています。この3ヶ月をかけて特にハコモノと呼ばれる公共施設の現地調査を行っています。1日の平均走行距離は70kmほど。ランニングコストも低く、地球に優しい業務を行っています。	
平成28年7月30日	第30回久住高原クロスカントリー大会 ～爽やかな風吹く高原を走る！～	7月30日、30回目を数える「久住高原クロスカントリー大会」が久住町南登山にある日本一のマラソンコースで開催されました。全国から1,023人が参加。夏の青空のもと、出場選手のみなさんはしっかりと整備された高原のコースを駆け抜けていました。 電気自動車は、各種物資の輸送や大会本部の放送等への給電へ活用されました。	
平成28年5月30日	ゴミフ大会	清掃しながら健康づくりに取り組む「ゴミフ大会」が5月30日に竹田、豊岡、玉来地区で行われました。『ゴミフ』とは「ごみ拾い」と「ゴルフ」をもじり、スポーツと清掃を兼ねた美化活動で、今年は34回という節目の大会となりました。 大会には420人が参加。ごみの量はトータルで430kg(可燃ごみ320kg、不燃ごみ110kg)が集まり、竹田のまちがきれいになりました。	
平成28年4月18日	地震対応 避難所物資輸送	4月14日から発生した地震で、竹田市では最大震度5強を記録しました。市民に対しては「避難準備情報」を発表し、市内15カ所に避難所を開設しました。多くの物資を運べる電気自動車は各避難所へ毛布などを運びました。	

<p>平成28年4月8日</p>	<p>狂犬病予防注射受付事務 萩公民館</p>	<p>狂犬病予防注射の集合注射受付事務に活用しました。狂犬病予防注射の受付では、登録などでパソコンを使用するため電気自動車から電気がとれるので大変便利でした。</p>	
<p>平成28年4月3日</p>	<p>第68回岡城桜まつり JR豊後竹田駅および城下町一帯</p>	<p>第68回岡城桜まつり出発式および大名行列に活用しました。出発式では、音響を使用する電源を電気自動車から供給しました。近くに電源がなく大変便利でした。大名行列では、警備や途中の放送などで電気を利用しながら実施しました。</p>	